

THE CURRENT

Energy News and Innovation

April, 2026

ご挨拶

GEベルノバの日本初となる日本語ニュースレターを、新年度のスタートとなる4月にお届けできることを大変うれしく思います。本ニュースレターでは、GEベルノバのグローバルにおける最新の取り組みや、日本市場における事業活動などを定期的にご紹介してまいります。

長年にわたり、当社のガスタービン技術は日本のエネルギーインフラを支えてまいりました。国内のガス火力発電容量の約半分を、納入実績130基を数える私たちのタービンが担っているということは、皆さまからの信頼の証であり、私たちの誇りです。エネルギーの安定供給と脱炭素化の両立が急務となる中、ガス火力発電の役割はより柔軟でクリーンなものへと進化しています。GEベルノバは、世界で培った技術と知見を日本のエネルギー事情に合わせて最適化し、脱炭素化への取り組みを力強くサポートしてまいります。

GEベルノバ ガスパワー ジャパン プレジデント 戸村 泰二

新年度を迎え、再生可能エネルギーの導入拡大に向けた新たな取り組みが進んでいることと存じます。

GEベルノバは、日本の風力発電の未来に深くコミットしています。これまでに国内で150万kW超の風力発電設備を導入しており、これは日本の陸上風力発電導入量の約25%に相当します。さらに、当社の主力となる新たな陸上風力タービンの供給に向けた計画を進めるとともに、商業展開も開始しています。これは、日本のカーボンニュートラル達成に向けた具体的な貢献の一つです。

風力発電をはじめとする再生可能エネルギーが主力電源として機能するためには、発電設備の高度化に加え、送電網全体の強靱化が不可欠です。GEベルノバは、機器供給にとどまらず、事業全体の安定性向上を見据えた総合的な取り組みを通じて、日本の風力発電の発展に貢献してまいります。本ニュースレターが、当社の取り組みや考え方をご理解いただく一助となれば幸いです。

GEベルノバ カントリー セールスダイレクター 陸上風力事業 西川 文敏

グローバルの取り組み

GEベルノバ、2025年通期および第4四半期の業績を発表 受注・バックログ拡大と見通し引き上げ

GEベルノバは2026年2月17日、2025年通期および第4四半期の業績を発表しました。2025年は、受注高が前年比34%増の593億ドル、売上高が同9%増の381億ドルと堅調に推移し、受注残高も1,500億ドルに拡大しました。これにより、2026年に向けても力強い成長が見込まれています。

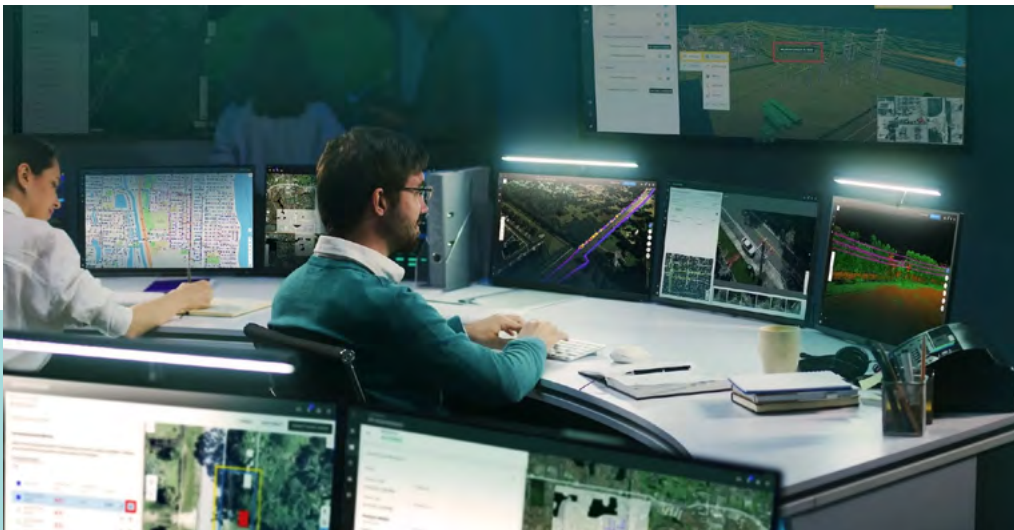
ベトナムで加速する電化とエネルギー転換 製造・発電・送電を一体で強化

世界的に電力需要が拡大する中、日本でも電力の安定供給と脱炭素化の両立が重要な課題となっています。こうした中、GEベルノバはアジアで進む先進的な取り組みとして、ベトナムにおける事業展開を加速させています。

GEベルノバは今年3月、ハノイで初となる「Energy of Change Summit」を開催し、政府や電力会社とともに、同国のエネルギー転換を本格的な実行フェーズへと進める方向性を共有し、発電・送電・製造にわたる複数のプロジェクトを発表しました。同サミットには日本を代表する企業も参加しました。製造分野では、GEベルノバはハイフォンに約2億ドルを投じ、高電圧直流(HVDC)送電向けの大型変圧器を製造する新工場の建設を発表しました。発電分野では、ベトナム初のLNG火力発電所であるニョンチャック3号および4号(約1.6GW)の商業運転開始に貢献しました。さらに、同社は複数のLNG発電プロジェクトにおいてガスタービン技術の採用を発表しており、電力の安定供給と石炭からの転換を後押ししています。送電分野では、GEベルノバはベトナム電力(EVN)と高電圧直流(HVDC)技術に関する協力に向けた覚書を締結しました。

GEベルノバによるこれらの取り組みは、電化の進展を「製造・発電・送電」の各領域から一体的に支えるものであり、エネルギー転換を加速させる実践的なモデルといえます。日本においても、電力需要の増加やインフラ制約への対応が求められる中、こうした統合的なアプローチは今後のエネルギー戦略を考える上で参考となる取り組みです。詳しくは下記の英語リリースにてご覧いただけます。

- [GE Vernova expands manufacturing capacity in Vietnam to support growing global electrification needs | GE Vernova News](#)
- [GE Vernova powers Vietnam's energy transition with key regional commitments at inaugural Energy of Change Summit | GE Vernova News](#)



AIで停電リスクを予測

送電網のレジリエンス強化に向けた取り組み

近年、気候変動の影響で世界各地で暴風雨や豪雨による停電リスクが高まっており、日本でも台風や線状降水帯への備えが重要な課題となっています。こうした中で、GEベルノバの送電網ソフトウェア「GridOS」は、AIを活用して悪天候による停電リスクを予測し、より迅速で安全な復旧を支援するソリューションとして注目されています。

GEベルノバには、「Eyes of the Storm(嵐の目)」と呼ばれる専門家チームが存在します。彼らは、ハリケーンなどの大型気象災害が迫ると、電力会社のコントロールセンターと一体となって、24時間体制で送電網の監視とサポートにあたります。GridOSはAIを用いて膨大な気象データや設備情報を解析し、どのエリアで停電が発生しやすいか、どこに作業員を配置すべきか、といった判断を支援することで、復旧時間の短縮や現場の安全性向上に貢献します。この技術は、台風やゲリラ豪雨が頻発する日本にとって、電力インフラのレジリエンス(強靱性)を高めるための、非常に有効な一手となり得ます。GEベルノバは、このような最先端のソフトウェア技術を通じて、気候変動に適応し、より安全で安定したエネルギー供給の実現に貢献していきます。詳しくは[こちら](#)(英語)をご覧ください。

データセンター需要に応える新たな電源アプローチ

日本政府も誘致に力を入れる、AI時代の中核インフラ「[データセンター](#)」。その建設ラッシュが世界的に加速する一方、深刻な問題が浮き彫りになっています。それは、「電力供給の遅延」です。生成AIの爆発的普及により、データセンターの電力需要は急増しています。しかし、送電網への接続待ちや系統容量の制約により、必要な電力を「いつでも・必要なだけ」確保できない状況が生まれています。

この課題に対し、GEベルノバは米国のグリーンエネルギー企業 [Crusoe](#) 社と組み、画期的な解決策を提示しています。それは、送電網からの電力供給を「待つ」のではなく、LM2500XPRESSのような柔軟性の高いガスタービンデータをデータセンターの敷地内に設置し、電力を「その場で作る」というアプローチです。この方式の強みは、その卓越した「柔軟性」と「即応性」にあります。必要な時にすぐさま最大出力で稼働できるため、電力会社による送電網の工事遅延にビジネスの成長を左右されることがありません。

さらに、再生可能エネルギーの導入を積極的に進めた場合でも、その出力の波をガスタービンが吸収することで、データセンターの安定稼働と脱炭素化という、一見相反する目標の両立を可能にします。日本でも、電力安定供給とデータセンター投資拡大の両立が急務となる中、こうした「ローカル電源」アプローチは、今後ますます重要な選択肢となるでしょう。詳しくは[こちら](#)(英語)をご覧ください。



GE ベルノバの日本における動向

日米連携の強化とエネルギー分野における取り組み

2026年3月、米国ホワイトハウスは日米同盟の強化に関するファクトシートを公表し、エネルギー分野における協力拡大の方向性を示しました。その中で、GE ベルノバの技術が関わる取り組みとして、小型モジュール炉(SMR)および天然ガス発電分野におけるプロジェクトが言及されています。

具体的には、GE ベルノバと日立が推進する小型モジュール炉(SMR)について、テネシー州およびアラバマ州における約400億ドル規模の投資計画が示されています。また、ペンシルベニア州およびテキサス州では、約330億ドル規模の天然ガス発電プロジェクトも発表されており、電力の安定供給とエネルギー安全保障の強化に向けた取り組みが進められています。これらの取り組みは、GE ベルノバが有する発電技術とパートナーシップを通じて、日米両国におけるエネルギー転換の推進に貢献するものです。

次世代原子力(SMR)に関する動向

2026年3月に東京で開催されたインド太平洋エネルギー関連の閣僚会合およびビジネスフォーラムにおいて、日米両政府はエネルギー分野における協力強化に向けた取り組みを発表しました。その中で、次世代原子力技術である小型モジュール炉(SMR)の導入検討が、重要な柱の一つとして位置づけられています。

GE ベルノバは、日立製作所との長年の協力関係のもと、BWRX-300をはじめとする SMR 技術の実用化に向けた取り組みをグローバルに推進しています。SMRは、従来型原子力と比較して柔軟な設計や建設期間の短縮が可能とされ、安定電源としての役割に加え、再生可能エネルギーの拡大を支える電源としても期待されています。

日本においても、エネルギー安全保障と脱炭素化の両立に向け、多様な電源構成の検討が進む中、こうした次世代技術の動向は今後の議論において重要な要素となる可能性があります。GE ベルノバは、グローバルで培った技術とパートナーシップを基盤に、各国のエネルギー政策やニーズに応じたソリューションの提供を目指しています。

IHIとGE ベルノバ、100%アンモニア燃焼の実証に成功

株式会社 IHI と GE ベルノバは3月、大型ガスタービンにおける100%アンモニア燃焼の実証に成功したことを発表しました。本実証では、GE ベルノバのFクラスガスタービンを用い、実機と同等の条件下で100%アンモニア燃焼を達成しました。排出特性も開発ロードマップに沿った結果が確認されており、2030年頃の商用化に向けた重要なマイルストーンとなります。アンモニアは燃焼時にCO₂を排出しない燃料として期待されており、日本でもサプライチェーン構築や既存火力での活用が検討されています。今回の成果は、その実現性を裏付けるものといえます。

IHI と GE ベルノバの連携による技術革新は、脱炭素と電力安定供給の両立に向けた現実的な選択肢を広げるものであり、日本のエネルギー戦略を考える上で重要な示唆となります。

CSR、サステナビリティ活動

次世代人材育成に向けたSTEM教育支援

エネルギーの未来を形作るのは、最先端の技術だけではありません。その技術を創造し、課題を解決していく「人」こそが、最も重要な資産です。GEベルノバは、次世代を担うエンジニアや科学者を育成するため、世界各地でSTEM(科学・技術・工学・数学)教育の支援に情熱を注いでいます。

そのユニークな取り組みの一つが、「Next Engineers」プログラムに代表される、子どもたちを対象としたSTEMワークショップです。GEベルノバの従業員がボランティアとして参加し、子どもたちと一緒にLEGOブロックやロボットキットなどの「おもちゃ」を使って、課題解決に挑戦します。

例えば、「風で動く車を作る」、「限られた材料で、できるだけ高いタワーを建てる」といった課題です。子どもたちは夢中になって試行錯誤を繰り返す中で、知らず知らずのうちに、「問題解決能力」、「論理的思考」、「チームワーク」、「失敗から学ぶ力」といった、未来のイノベーターに不可欠なスキルを自然と身につけていきます。GEベルノバは、こうした教育支援を通じて、子どもたちが性別や背景に関わらず、科学や工学の世界に興味を持つきっかけを提供したいと考えています。

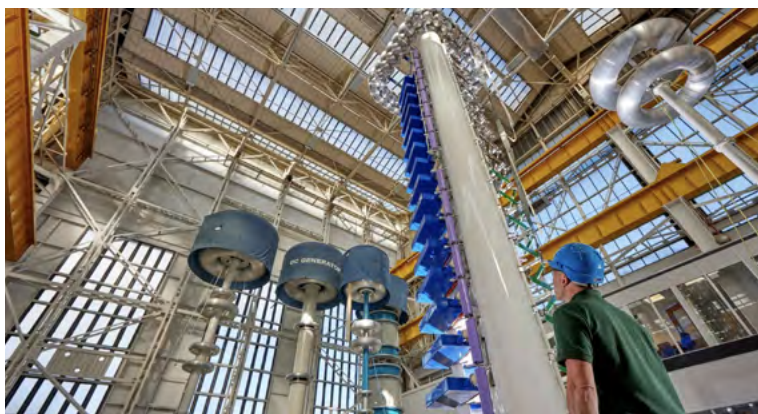
これは、単なる社会貢献活動ではありません。エネルギーの未来、そして社会全体の未来を担う「人」への投資であり、GEベルノバが果たすべき重要な責務の一つです。詳しくは[こちら](#)(英語)をご覧ください。



製造現場からの排出削減

「A dollar saved is a dollar earned(1ドルの節約は、1ドルの儲け)」— この古くからの格言が、製造業の現場では今、新たな意味を持っています。世界各地の製造拠点で、GEベルノバは「A Dollar Saved(1ドル節約)」を合言葉に、排出削減とコスト効率化を両立させる取り組みを加速させています。

GEベルノバは、世界100カ所以上の製造拠点で、現場の従業員が主導する効率化プロジェクトを100件以上、精力的に進めています。これは、従業員一人ひとりが「サステナビリティの帽子」をかぶり、自らの職場でエネルギー



の無駄(=コスト)を「宝物」として探し出す活動です。

例えば、「圧縮空気の漏れを特定し、修理する」であったり、「建物の断熱性を高め、照明をLEDに交換する」といった活動です。一つひとつは地道な改善ですが、これらを全社で積み重ねることで、エネルギー消費量とCO₂排出量を大幅に削減しています。詳しくは[こちら](#)(英語)をご覧ください。

トップメッセージ

GE ベルノバのスコット・ストレイジック CEO は、自身の LinkedIn において日本を訪問した際の様子を紹介し、日本およびアジア地域における顧客やパートナーとの連携の重要性と、エネルギー転換に向けた取り組みの加速について発信しました。今回の訪問を通じて、日本市場への強いコミットメントと、同地域における事業のさらなる成長への意欲を改めて示しています。詳しくは [LinkedIn](#) をご覧ください。

さらに、ストレイジック CEO は、Bloomberg のインタビューにおいて、世界的な電力需要の高まりを背景に GE ベルノバがガスタービンの生産を加速していることを強調しました。こうした大型ガスタービンを供給できる主要メーカーは世界でも数社程度に限られています。インタビュー動画(英語)は [こちら](#) よりご確認ください。

日本における GE ベルノバについて

GE Vernova は過去 130 年にわたり、ガスタービン、蒸気タービン、原子炉、水力タービン、風力タービンなどの発電設備を提供し、日本の安定した電力供給に貢献してきました。株式会社 JERA との協力関係は 1927 年、当時の中部電力・東京電力時代にまで遡ります。さらに、GE Vernova は 1875 年以来、株式会社東芝と長年の協力関係にあり、数々のマイルストーンを共に育んできました。

GE Vernova は現在、日本の陸上風力発電設備容量の4分の1を供給しており、2030 年を目標に運転を開始する世界最大の洋上風力発電タービンである Haliade-X も供給しています。詳しくは、GE ベルノバの [ウェブサイト](#) および [LinkedIn](#) をご覧ください。

お問い合わせ

GE ベルノバのウェブサイトの「[お問い合わせ](#)」をご活用ください。

GE Vernova 日本オフィス

〒107-6115 東京都港区赤坂 5-2-20 赤坂パークビル15階



GE VERNOVA

Copyright © 2026 GE Vernova, and/or its affiliates. All rights reserved. GE is a trademark of the General Electric Company and is used under trademark license.

You are receiving this email because you opted in to receive e-mails from GE Vernova.

Our mailing address is: GE Vernova, 58 Charles Street Cambridge, MA 02141 USA

Want to change how you receive these emails? You can update your preferences or unsubscribe